

桑原運輸の「ふかぼりSTORY」

愛媛新聞 7月15日掲載 5段 [H170×W380mm] 4c

視界には次のステージがある

目の前に現れる変化の山や谷を越えて進んでいきたいから、
わたし達は先を見て、先を読み、先に備えることを怠らないようにします。
この習慣は、想定外のことに対処する技や期待以上の結果を出す力を育てます。
「応え続ける仕事」をして笑い合うための、桑原運輸のセオリーです。



〈私たちの七つのこだわり〉 先手必勝／たえず問題意識をもって、先手、先手で働きかけよう

攻めの姿勢でチャンスを活かす

「先手必勝」は、戦いの局面において相手より先に攻撃を仕掛けたり、先に手を打ったりすれば、勝てる、有利である、を意味する四字熟語です。桑原運輸がこだわりの一つとして挙げる「先手必勝」は、そういった一般的な先手必勝とは意味合いが少し異なります。「何かが起こった時のことを想定して、先に打てる手は打っておきましょう」というのが、桑原運輸の先手必勝です。何かが起こるより先に手を打つには、先を見ることが必要です。たとえば、事故防止のための「かもしれない運転」のように、万が一を想定し、そうならないためにはどうすればよいかを考えて行動します。

「かもしれない運転」はものごとを否定的にとらえた先手ですが、「何かが起こる」の“何か”はネガティブなことばかりでは

ありません。やりたい仕事を任されるチャンスが訪れることもあります。そのとき、準備ができていれば、チャンスを活かすことができます。そういった例はいろいろあります。たとえば国賓ディナーを任されることになった有名ホテルの女性シェフや、有名俳優の代役に大抜擢された俳優。二人とも見事に役を務め、大絶賛されました。二人に共通していたのは「活躍の舞台を想定して日ごろから仕事に取り組んでいた」ということ。

今の仕事に追われるのではなく、次の、またその次のステージを見据えてやるべきことを追いかける攻めの姿勢を常に持つこと。それが桑原運輸の「先手必勝」です。



運ぶことは、贈ること。

桑原運輸株式会社
KUWAHARA TRANSPORTATION CO.,LTD.